

## ■ 平成18年度の主な活動実績

研究所を取り巻く状況の変化に対応し、行政・社会・産業に対し、高度な技術的ソリューションを提供するため、その他次のような活動を行いました。

### □国際基準策定への貢献

国際海事機関(IMO)での船舶の安全確保、海洋環境の保全等の国際基準の策定について、我が国提案の策定に研究所の技術的知見を提供(61件の提案文書)するとともに、IMOでの審議への研究所の職員の派遣(延べ28人)・議長への就任を通じ、我が国提案の実現に貢献しました。

また、IMOでの排出ガス規制強化の高まりに応え、米英の専門家を招へいし、産業、官庁等の国内関係者の参加の下、船舶からの大気汚染に関する国際ワークショップを主催し、我が国の提案への理解獲得に貢献しました。



IMO会議で議長を務める吉田国際連携センター長(写真上・左から3人目)と大気汚染ワークショップ(写真下)

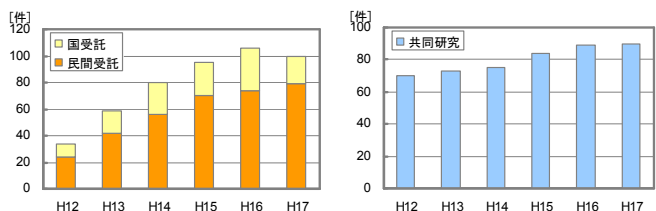
### □外部との有機的な連携の推進

(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構と(独)海洋研究開発機構とそれぞれ協力協定を締結しました。研究実施・成果活用による海洋開発分野での世界トップレベルの技術革新の実現を目指しています。

また、行政・社会・産業界が求める課題解決型研究への一層の転換を目標に、研究を通じた外部連携への組織的取り組みを強化し、特に、企業、団体等の民間からの受託研究に積極的に取り組むとともに、相互技術の補完による質の高い成果の創出のため、大学、企業等との共同研究にも取り組みました。



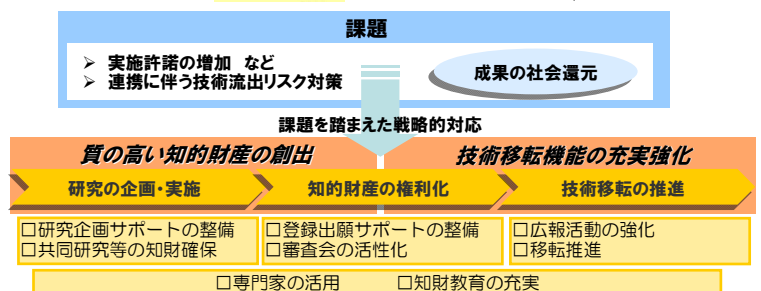
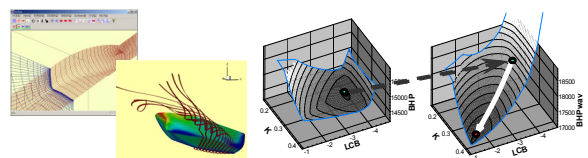
石油天然ガス・金属鉱物資源機構(写真左)と海洋研究開発機構(写真右)との包括的協定締結式



### □知的財産戦略の策定

政府の知的財産戦略本部の推進計画を受け、知的財産の確保・技術移転による社会貢献・国民生活の向上を目的に、研究所の基本理念をまとめた知的財産ポリシーを公表しました。

また、成果普及の重要なツールである特許・プログラムについて、第1期中期計画期間での課題を受け、出願・登録だけでなく、より多くの使用許諾の実績が得られるよう、研究企画・権利化・技術移転に至るまでの各ステージにおける対策をまとめた戦略を策定し、知的財産の取組を強化しました。

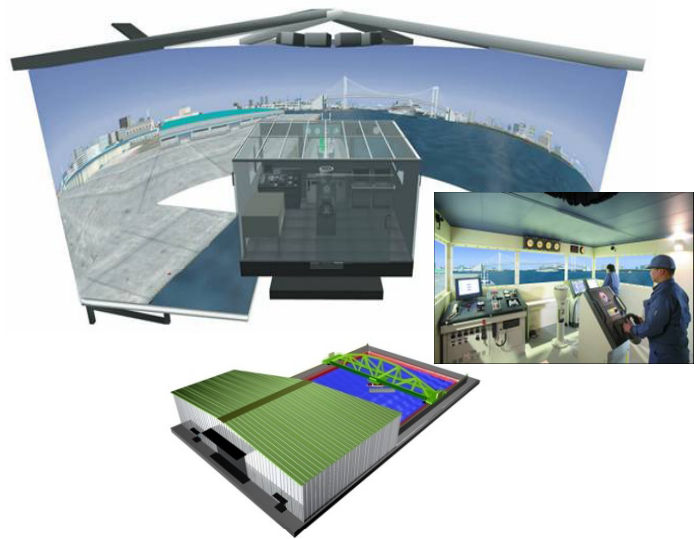


研究所の知的財産戦略

### □ 操船リスクシミュレータの整備

実海域での船体運動を模擬する動揺船橋、離着岸作業を模擬する下方視界スクリーン、操船者の行動分析システムを備える操船リスクシミュレータを整備しました。従来に比べて格段に精度が高くより現実に即した操船環境を再現することが可能となり、事故原因の分析、安全基準の策定、機器開発などの研究分野での一層の活用が期待されます。

また、船舶が遭遇する波や風の海象状況を再現できる水槽の建設を開始し(平成22年度完成)、将来、この水槽とシミュレータをリンクする研究も進めています。

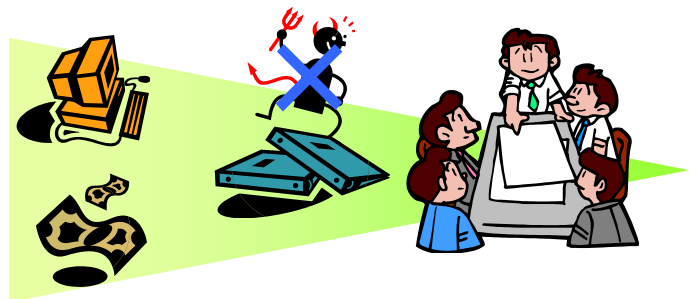


操船リスクシミュレータ(写真上)と建設中の実海域再現水槽(イメージ図下)

### □ 業務の適正化・効率化

データねつ造、不正受給等で社会問題となった研究不正・研究費不正防止の政府方針に基づき、国土交通省所管の他の独立行政法人に先駆け、防止のための内規等を整備するとともに、研修などの様々な機会を通じ、その遵守(コンプライアンス)の徹底に努めました。

また、随意契約見直しの政府方針に基づき、機器調達等での一般競争入札の適用範囲の拡大を行うとともに、更なる活用のため、競争機会の拡大を図る制度見直しも行い、コスト低減に努めました(見直し後、一般競争入札件数が26%増加)。



研究不正・研究費不正の防止のための内規などの整備と職員への遵守の徹底

### □ 研究成果の発信

研究発表会・講演会では、テーマの充実、説明・意見交換の時間の確保を図り、研究成果の理解促進とともに、交流・情報交換にも努め、多くの方々にご参加いただきました。

また、春夏の一般公開における地域の方々に向けたプログラムの充実、三鷹市との連携による小学生の見学・中学生の社会体験学習の受入等、船舶・海洋技術のアウトリーチ活動にも努めています。



海技研講演会(テクノオーシャン2006と同時開催)(写真左)  
夏の一般公開(写真右)